

パディさんとの交流風景。子どもたちともすぐに仲よく。▶

「ここでは、技能実習生が日本での仕事と生活になじむために必要なる経験を提供しています。

私は、来日直後にどのようなことを学んだかが最も大切だと考えています。新聞などで目にする外国人労働者の事件は、言葉の壁で孤立し周囲に馴染めず辛い思いをしたことが発端という場合も多いのです。この家では、2か月間共同生活し、地域の方に「パディ※」になってもらい、いっしょに買い物に行くなどしながら、日本語や暮らしていくうえでのルールやお金のつかい方を知ります。なにより、地域の日本人と親しくできる心強さを体験できるのが大きいのです。「パディ」さんたちも楽しんで協力してくれています。

外国の若者たちは夢を持って来日



共に働く人を育てる 地域で共に生きる

呉竹町の古い民家を利用して、外国からの技能実習生の育成に取り組む「公益社団法人トレーニングケア」代表の新美純子さんに伺いました。

しています。彼らの日本での生活の不安をやわらげるのは、なにより皆さんの笑顔での声掛けです。理解したらきちんと実践する彼らの素直さや優秀さも皆さんにぜひ知っていただきたい。ごみの捨て方ひとつでも笑顔で声をかけて教えてくだされば、次からはできるはず。高浜市内で就職する人も市外に行く人もいますが、このまちで培ったことは彼らの支えになるはず。

私自身この近所で育ち、この家も幼馴染の実家です。小さなまちだからこそできることがあると実感していますし、もっとこの輪が広がるといいなと思っています。」

※地域で安心して生活できるよう手助けする仲間・相棒となるボランティア



日本語の授業風景。「高浜市ではドラゴンのある公園や夕日が見える美しい海岸が気に入っています。」と流ちょうに話してくれました。▶



▲新美さんとスタッフの皆さん。取材している間にも、いろいろな方が出入り入りにぎやかです。



市 民団体も共存のための取り組みをスタートさせています。

市内の会社との連携で「高浜の防災を考える市民の会」が外国人向けの防災勉強会を開きました。「地震がほぼおきない国から来たひとは少しの揺れでも動揺してしまう。万一被災したら不安感から思いがけない行動をとってしまうかもしれない。普段から防災知識や避難所のことを教えてあげておく必要がある。」と、同会のスタッフは語ります。

また、去年の吉浜の盆踊りには浴衣を着て外国人の実習生が参加したり、成人式にも出席したりと、地域での交流も広がり始めています。皆さんとの交流をおして地域生活を覚え、異国での不安が解消されることで、大家族たかほまの多文化共生時代が少しずつ開けていくのではないのでしょうか。